



持続的な水産業の振興をめざす 文理融合型の教育研究センター

水圏エコシステムプロジェクトセンター センター長 荒西太士
(生物資源科学部 教授)

日本海側の国立大学では初の水産科学に関する高等教育研究機関として、2014年に水産資源管理プロジェクトセンターが設置されました。水産資源管理プロジェクトセンターでは、有用水産資源の開発・管理・保全・培養・増殖に関わる教育と研究を推進してきました。そのリソースを引き継ぎ、2019年からは水圏の生物資源や環境資源をエコロジー（生態）とエコノミー（経済）の両システムで包括的に評価・管理する水圏エコシステムプロジェクトセンターが新たな拠点となりました。

水圏エコシステムプロジェクトセンターでは、学内部局を横断して生物資源科学部や医学部、エスチュアリー研究センターなどに所属する研究者が活動し、幅広い専門分野をベースに山陰地方の地域特性に則した実践的な教育と研究を推進しています。また、学外からの競争的資金だけで運営されている上、人々の生活の糧である水産業の振興をゴールとしている水圏エコシステムプロジェクトセンターには、高い社会性が求められます。国などの行政機関、水産系や環境系などの民間企業、漁業関係者の生産団体と協力しながら、ときには小中学校で児童や生徒に水産資源の大切さも啓蒙しながら、水産業が将来にわたって山陰地方の基幹産業として持続できるよう、水産プロフェッショナルを育成する高等教育研究機関としての役割を果たしていきます。

宍道湖で異常繁茂する沈水植物の調査風景
(国土交通省受託研究)



小学校での水産資源に関する授業風景
(海とさかな自由研究コンクール)

